

平成24年5月の解説（週間天気予報）

【5月の天候状況】

上旬は、北・東日本では低気圧や上空の寒気の影響で、ぐずついた天気となり、2日から3日にかけては本州南岸を東進した低気圧と前線の影響で北・東日本の太平洋側で記録的な大雨となった所がありました。また、旬の後半には、上空に強い寒気が流れ込んだ影響で、北日本から西日本では所々で雷雨となり、6日には茨城県、栃木県、福島県で竜巻が発生しました。沖縄・奄美では、旬のはじめとおわりに低気圧や梅雨前線の影響で曇りや雨となった所がありますが、その他の日は概ね晴れました。

中旬は、日本付近を低気圧や高気圧が交互に通過し、北日本から西日本にかけて、天気は数日の周期で変わりました。北日本では旬のはじめに寒気や東からの湿った気流の影響を受け、ぐずついた天気の所がありました。東日本では、北からの高気圧に覆われることが多く晴れの日が多くなりました。沖縄・奄美では、梅雨前線や太平洋高気圧の縁辺を回って湿った気流が入り、曇りや雨の日が多くなりました。

下旬は、北日本から西日本にかけて、旬のはじめは日本の南海上を低気圧が通過した影響で北日本から西日本の太平洋側では曇りや雨の所が多くなりました。旬の後半は上空の寒気の影響によって大気の状態が不安定となり、所々で雷雨となりました。沖縄・奄美では、旬の前半は梅雨前線の影響が弱く晴れの日が多くなりました。

月平均気温は、全国的に平年並となりました。月降水量は、北日本の日本海側で平年並、太平洋側でかなり多くなりました。東日本の日本海側では少なく、太平洋側で多くなりました。西日本ではかなり少くなりました。沖縄・奄美では平年並でした。月間日照時間は、北日本で少なく、東日本の太平洋側で多くなりました。東日本の日本海側と西日本、沖縄・奄美では平年並でした。

【5月の検証結果】

「降水の有無」の適中率（3～7日目の平均）は、全国平均では例年値^(注)より5ポイント高い75%でした。地方毎の適中率は、北海道地方と近畿地方で7～8ポイント高く、中国地方、四国地方及び九州北部地方では11～12ポイント高くなりました。

最高気温（2～7日目の平均）の予報誤差は、例年値より小さい地方が多く、東北地方、関東甲信地方及び沖縄地方で例年値より0.5～0.8℃小さくなりました。全国平均では例年値より0.3℃小さい2.6℃になりました。最低気温（2～7日目の平均）の予報誤差も、例年値より小さい地方が多く、中国地方では例年値より0.5℃小さくなりました。全国平均では例年値より0.2℃小さい1.8℃になりました。

^(注) 例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【7月の週間天気予報の利用にあたって】

7月に入ると、平年では、7月の中旬から下旬にかけて九州から東北地方において梅雨明けとなります。しかし、梅雨明けの時期は年によって違いがあり、梅雨明けが遅れると、日照不足とともに長雨や低温により農作物の育成に大きく影響します。週間天気予報で曇りや雨の日が予想され、平年より気温の低い日が続く場合は、農作物の管理等において早めの対策をとるなど注意して下さい。